

「大学院教育における教科指導力育成の取り組みの方法と その成果について学ぶ」

家政教育・藤田昌子

【日時】平成 30 年 1 月 23 (火)・30 日 (火)
1 限 (8 時 30 分～10 時)

【場所】402 講義室

【概要】

第 1 回：1 月 23 日 (火)

国語教育領域，社会科教育領域，
美術教育領域

(一領域あたり質疑応答を含め 25 分)

全体講評 (10 分)

第 2 回：1 月 30 日 (火) 1 限

理科教育領域，保健体育領域，
音楽教育領域

(一領域あたり質疑応答を含め 25 分)

全体講評 (10 分)

教育学研究科教科教育専攻「教科指導力高度化演習」公開報告会への参加を通して考えたことを以下にまとめる。

【重要であると考えた点，参考になった点】

＜重要であると考えた点＞

- ・教科専門と教科教育の教員が共同で授業を担当し，両者の融合により研究的な授業実践力を育成する重要性を改めて感じた。
- ・教科専門と教科教育の教員の指導のもと，いずれの領域の学生も，先行研究，教材研究，教材開発，授業実践，分析，評価を丁寧に行っており，教育現場等のフィールドを積極的に活用して，高度な実践的教科指導力を獲得する重要性を再確認した。

＜参考になった点＞

- ・教員が，児童・生徒にどのように教えたかではなく，どのように学ばれたかについて振り返ることが必要であることは常に認識していたが，児童・生徒が何を学んだから得点（今回の場合は意識）が変わったかどうか，その具体的な中身についても詳細に検討していく必要性を改めて感じた。
- ・実践する学校（今回は特別支援学校）の教

育目標を達成するために，教科の目標が明確に位置づけられているところが参考になった。

- ・社会に開かれた教育課程の実現が求められているなか，地域の題材を活用していることや，「教科指導力高度化演習」の成果として，人的ネットワークを構築できたことなどが参考になった。
- ・目標を達成するために必要な学習活動を分析 (Analysis)・設計 (Design)・開発 (Develop)・実施 (Implement)・評価 (Evaluate) の 5 つのフェーズとして定義した ADDIE モデルを活用し，「教科指導力高度化演習」に取り組んでいたことが参考になった。

【授業改善の方策・計画】

本 FD 活動に 2 日間参加し，自分自身の授業改善の方策および計画について検討してみた。

1 点目として，教科教育と教科専門の教員の連携を強化しなければならないことが挙げられる。これまで「家庭科教育法Ⅲ」「家庭科教育法Ⅳ」「家庭科演習」「教職実践演習」などにおいて，教科専門の教員との連携を少しずつ試みてはいる。しかし，様々な授業場面に用いる教材に対して，その理論的な意味や学術的な背景等などの学生の理解力が十分でないことが多いことから，連携を強化することにより教材として精度を高めていきたいと考える。

2 点目として，ADDIE モデルを参考にし，授業実践研究を行いたいと考えた。教育を行った結果，どのように児童・生徒が成長（または変化）したかということ把握しなければならないが，より効果的な授業を行うために，分析・設計・開発・実施・評価の 5 つのフェーズを丁寧に取り組んでいきたいと考える。